



恒例になっている子ども向けの多文化理解講座を取材しました。今年度はアメリカ、ベトナム、アルメニア、中国、フランスです。参加者は小学2～4年生の9人、教室に入り、ファーストネームがローマ字で書かれた名札を受け取ります。3回目で慣れているせいか、クラスが始まる前から先生に話しかけたり、友達同士でじゃれ合っていました。

講座は14時からの2時間で、前半は、アメリカ合衆国テキサス州出身のマルセロ先生による英会話です。始めは歌やじゃんけんゲームをして、次第に英語に馴染んでいきます。

その後、“How are you?”に答える表現、“I’m happy.”や“I’m excited.”などを学びました。先生がアライグマと猫のパペットを使って、コミカルな動きで問題のヒントを与えると、子どもたちが競って手を挙げ、元気に答えていました。



英会話教室でのクイズ

後半は多文化理解講座、アルメニア出身の留学生イネサさんによる国紹介でした。ジョージアの南でトルコやイランに囲まれた小さな国のことは、子どもたちにほとんど知

られていませんでしたが、首都エレバンにはあちこちに水飲み場(プルプラク)があるのを知ると、「えー、うらやましい。」という声が聞こえました。

チェスが必須科目だという、アルメニアの小学校の教室の写真にも、子どもたちは興味津々です。主食の平たいパンの作り方や、アプリコットが盛ってある市場のビデオを観ると、「オレも行ってみようかなあ。」という子まで出てきました。

イネサさんはハキハキとした日本語で、誰かが質問すると必ず、「いい質問ですね。」とほめてくれました。また騒がしくなると頭上で手を叩き、「待って。友達が言っている時はお互い聞きましょう。」と諭すので、やんちゃな子どもたちもきちんと話を聞きました。アルメニア語も分かりやすく教えてくれ、各々がアルメニア語で自己紹介出来るようになりました。

講座が盛り上がり質問もたくさん出たため、終了時間が過ぎてしまったのですが、アルメニアのダンスをして締めくくりました。子どもたちと同様に、見守っていたボランティアたちも、世界にはまだまだ知らない国があるのだと実感した一日でした。



アルメニアのダンス

多文化共生の旬

100号記念にあたり「多文化共生」をテーマに会員のみなさまから作品を募集しました。今回はそのうちの2点をご紹介します。ご応募いただいた作品は随時掲載します。



望郷の

涙堪えて見あげれば
慰めの月 ありがたきかな

坂上多津夫

どこか遠くへ捨てましょう

玉手箱に鍵かけて
みんなみんな幸せそう
きれいで優しい乙姫も
亀の背に乗る太郎くん
楽しく舞い舞う鯛ひらめ
龍宮城ってダイバーシテイ?
ダイバーが海底で見つけた理想郷(シテイ)

多文化共生ってどこかの誰かが見つけてきてくれるものではありません。
私たち一人一人の心の中で時間をかけてじっくりゆつくり築かれていくものです。
玉手箱を開けても消えない多文化共生社会を目指したいものです。

長谷川庸子





つなひろこだいらクラスは、文化庁のWebサイト『つなひろ』を使って、生活のための日本語を「話す」ことに重きをおいたクラスです。日本語初心者でもすぐに日本人と話せるようになってもらうために、従来とは違う教え方を試みようとして、昨年9月に開講しました。フィリピン、アメリカ、中国、台湾、バングラデシュ、チリ、モンゴル、セイシェル、ジャマイカの出身者が登録しており、ボランティア3名が活動しています。

クラスでは、つなひろの動画とボランティア自作の教材をスクリーンに映しだして授業をすすめています。学習者にはあらかじめ学期ごとのシラバスが配布されていて、「やくしょにいこう」「あいさつをしよう」「おみせをえらんでみよう」など、毎回場面を変えて練習しています。この日は、美容院を利用する設定でした。動画では、お店に入り、シャンプーとカットを頼み、店員とカットする髪の長さを確認し、終わった後、代金を支払うというストーリーを視聴します。



最初は会話の全体を確認します。次に、3グループに分かれてロールプレイング。参加者はお店の人とお客さんに分かれ、気楽に

楽しみながら会話をしていました。その後は、代表者が前に出てロールプレイング。少し長い会話なので、時々教えてもらうこともありましたが、美容院に行つて会話をする自信がついたのでは、と感じられる様子でした。また、お店では、店員が「どうなさいますか」「かしこまりました」などという場面があり、日常耳にすることが多い敬語表現も学ぶことができます。



基本パターンの会話が終わった後、パーマやカラーを依頼する応用編もやり、会話の幅が広がりました。ボランティアからは、代金を払うためのおもちゃのお金や、ハサミ、櫛などの小物、パーマやカラーの形や色の見本なども用意され、現実感あふれる会話を行うことができました。

クラスの最終日には、復習とともに、お茶を飲みながらゲームをするそうです。楽しみながら回を重ねるごとに会話が上達する、そんな「つなひろクラス」に期待が高まります。

<文化庁WEBサイト>

<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/>



東村山市の多文化共生への取り組み

取材日:6月15日(木)

小平市の北どなりにある東村山市の人口は約15万人、在住外国人は約3000人です。小平市の人口は約20万人で外国人人口が5000人強ですから、外国人市民の比率としては小平市の方がやや高めです。(東村山市約2%、小平市約2.5%)

今年東村山市が「第3次多文化共生推進プラン」を発表したと聞き、市民相談・交流課にお話を伺いに行きました。90ページに及ぶプランでは、データを踏まえた外国人市民の生活実態の分析や、今までの市の施策の反省のあと、日本語教育、行政や生活に関する情報提供、子育て支援や子ども学習支援、やさしい日本語や多言語による日本人市民との交流、そして災害時外国人支援体制の整備など、市が行っていく多文化共生施策が提示されています。

このプラン作りに先立ち、2021年9月には住民基本台帳から無作為(ランダム)に選ばれた外国人1300人と日本人1000人に対して、アンケートによる意識調査が行われています。通常このような調査を行う場合は何か特別なきっかけがあると思ったので、理由を聞いてみました。「(市の作成するプランが)まとはずれなものにならないように。」という当然すぎる答えにこちらが恥じ入る思いでした。

今回のプランは第3次プランです。最初のプランは

2013年に作られ、第2次プランが2018年。第2次プラン前年に最初の市民意識調査が行われています。今回は2回目です。すべてのプランと意識調査報告は東村山市のWebサイトからダウンロードできます。

東村山市役所の市民相談・交流課には外国人相談窓口があり多言語対応ができる多文化共生相談員もいます。実はこの制度は多文化共生推進プランよりはるかに古く、おそらく1980年代の「国際交流」時代からあったようです。

多文化共生という言葉が地方自治体に使われだしたのは、2006年「地域における多文化共生推進プラン」が総務省から発表された時からです。2009年から在留カードが導入され在住外国人にも住民票が発行されるようになりました。多文化共生施策の対象は、住民基本台帳に登録された「外国人市民」です。

多文化共生という考え方をより具体的な形で知ることができた取材でした。



東村山市市民相談・交流課
多文化共生係のみなさん

『多文化に優しいまち小平を目指して』

理事長 **たまぐちまさる**
瀧口 優

この4月より小平市国際交流協会（KIFA）の理事長に就任しました瀧口優と申します。前任の安部泰人理事長のもとで、KIFAはそれまでの任意団体から一般社団法人として再スタートしました。これからは自立した組織として歩みを進めなければなりません。今まででも多くの市民の皆さんに支えられてきましたが、新しいスタートにあたってより一層のご理解とご協力がいただけたら幸いです。



私は23年間白梅学園短期大学の英語の教員として勤務し、その傍らで評議員としてKIFAに関わってきました。多くの国や地域が多民族多言語の社会を受け入れている中で、小平市を少しでも多文化共生のまちになるように努力したいと思います。今後ともよろしくお祈りします。

2022年度決算および 2023年度予算

2022年度収支決算（2022年4月1日～2023年3月31日まで）
および2023年度収支予算（2023年4月1日～2024年3月31日まで）の内訳

※詳しい収支決算・予算をご覧になりたい方は、HPの「KIFAとは」のページ下部「情報公開」をご覧ください。

● 収入の部（内訳） (単位：円)

科目	2022 決算額	2023 予算額
会費収入	1,100,000	1,116,000
補助金収入（市補助金）	14,231,000	13,943,000
寄付金収入（注1）	5,529,163	20,000
事業収入	6,634,150	6,475,000

(注1) 任意団体としての小平市国際交流協会からの寄付金を含む

● 支出の部（内訳） (単位：円)

科目	2022 決算額	2023 予算額	
事業費	多文化共生に関する事業	1,845,127	2,682,000
	国際交流に関する事業	141,774	295,000
	国際理解に関する事業	4,273,761	4,424,000
	情報収集、調査研究及び広報に関する事業	1,200,858	1,361,000
管理運営費	14,948,064	15,195,000	

一緒に紙面を作る仲間を募集しています

本誌「国際こだいら」に載せる記事を考えて、取材したり、写真を撮影し、紙面のデザインを考え、文章の校正をしたりするボランティアです。あなたの言葉で伝えてみませんか？

KIFAのイベントや講座、ボランティア活動を取材することが多いので、多文化共生について理解が深まります。取材を通じて外国の方との出会いもあります。

次号101号の内容を考えるミーティングがあります。よかったら見学しませんか？

活動の詳細については、HPをご覧ください。

101号企画会議 9月13日(水) 午前10時～12時

これからの行事予定

- ◎多文化カフェ 9月10日(日)・11月26日(日)
- ◎多文化理解講座in English 10月14日(土)・21日(土)・28日(土)
- ◎小学校入学相談会 10月7日(土)
- ◎日本語能力試験(JLPT)対策講座 10月下旬～11月 土曜日
- ◎小平市日本語発表会 12月10日(日)

※詳しくは、HPまたはモニターでご確認ください。



編集後記 100号記念

実家が神道なので今年は母の「5年祭」。母が亡くなって3か月もたないうちに自分も死にかけたが、医療技術のおかげで生き延びた。日本語教師養成校に通い終了したらコロナ禍だった。幸い、KIFAでボランティアをさせていただくことができ2年半。自分の人生で一番わかりやすい4年半が過ぎ去った。

今年は自身も「5年“債”」。まだ月へは帰れない。(A.M.)



発行日 2023年9月1日
発行 一般社団法人
小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488
FAX. 042-347-3003
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

